６年　国語科書写学習指導案

授業者　大阪市立南住吉小学校　西森　望仁

１．日　　時　　令和８年１１月１０日（火）第５校時（１４：００～１４：４５）
２．学年・組　　第６学年２組（在籍３１名）
**　　場　　所**　　多目的室
３．単 元 名　　書き初めをしよう
（「夢を語ろう」東京書籍６年）

４．単元目標

○既習の文字の整え方を理解して、書き初めを丁寧に書くことができる。
（１）既習事項（※）を理解して、丁寧に書くことができる。　　[知識及び技能]
（２）（既習事項をどのように生かすか考えることができる。）　　[思考力、判断力、表現力等]
（３）既習事項を生かして、進んで書き初めを書こうとしている。[学びに向かう力、人間性等]

（※）既習事項について
○組み立て方……三つの部分の高さや幅を変え、位置を工夫して書く。
○文字の大きさ……用紙に合った文字の大きさに気をつけて配列よく書く。
・平仮名は漢字よりも少し小さく書く。
・用紙の上下に余白を作る。
・広さや文字数から、だいたいの文字の大きさと位置を考える。
○点画のつながり……点画の終筆から次の点画の始筆へと、次の点画への繋がりを意識しながら、なめらかに書く。

５．単元間の関連と系統

前々単元（４年１２月）	前単元（５年１２月）	本単元（６年１１月）
学習材 書き初めをしよう 「春を待つ」 ・姿勢、持ち方 ・組み立て方(上下・左右) ・点画の長さ ・点画の方向	学習材 書き初めをしよう 「強い決意」 ・文字の中心 ・文字の大きさ(漢字どうし) ・点画の接し方 ・点画のつながり	学習材 書き初めをしよう 「夢を語ろう」 ・組み立て方(三つの部分) ・文字の大きさ(漢字と平仮名) ・点画のつながり

６．単元で取り上げる言語活動

・書き初めを書くときに気を付けることを話し合う。
・友達にアドバイスしたり、よくなった点を相互評価したりする。

７．評価規準

知識・技能	(思考・判断・表現)※	主体的に学習に取り組む態度
既習事項を理解して、丁寧に書いている。	毛筆で「夢を語ろう」を書写するなかで、既習事項を確かめ、どのように生かすか考えている。	学習したことを生かして書いた自分の文字を見直しながら、進んで書き初めを書こうとしている。

※書写学習は学習指導要領において、【知識・及び技能】の一部として規定されている。

８．指導にあたって

【児童観】

本学級の児童は、普段から文字を丁寧に書くように言葉がけをしているため、文字を丁寧に書こうとする姿が見られる。相手を意識して丁寧に書くことができる児童が増えてきている一方で、高学年になるにつれてくせのある字や丸文字になってしまっている児童も多数いる。また、丁寧に書くことはできても、一つ一つの文字の点画の種類を意識しながら正しく書くまでには至っていない。話合い活動については、始めは何をどのように伝えるのか分からず、みんなが同じような内容になってしまっていた。書写用語や学習目標を意識して話し合いを重ねていくことで、学習用語を使いながら友達の文字のよいところを伝えたりアドバイスしたりすることができるようになってきている。

６年生になってから本単元までの間に、「点画のつながり」「字形」「配列」の学習に取り組んでいる。「点画のつながり」の学習では、点画から点画のつながりを意識しながら「旅行」、文字と文字のつながりを意識しながら「あられ」を書いた。一画一画に集中しすぎて、終筆から始筆へと、空中でなめらかにつなげるような動きを難しいと感じる児童が多かった。「字形」の学習では、「湖」のように三つの部分からなる字について、漢字がほかの漢字の部分になるとき、位置、形や方向を考えながら幅や高さを変えて書いた。特に高さを意識して書くことで、試し書きとまとめ書きに変化が見られた。「配列」の学習では、用紙にあった大きさで文字を書くには、どのようにすればよいかを考えた。用紙の上下左右に適度な余白や行間を作り、文字数から大体の大きさと位置を考えたり、漢字と平仮名の大きさの違いに気を付けたりして「中秋の名月」を二行で書いた。

【単元観】

本単元は、これまでの学習を生かし、毛筆で書き初めをする活用単元となっている。児童観で述べた既習事項を整理するとともに、書き初めの習慣を理解し、日本の文化に触れ、楽しく書き初めをすることを重点に置いている。

書き初めは、新年になって初めて文字を書く正月行事で、平安時代から続く日本の伝統行事である。江戸時代の寺子屋教育の普及によって庶民に広がり、明治時代以降、学校教育に取り入れられた。民間でも盛んにおこなわれるようになり、決意や目標、めでたい言葉を文字に込めて表現する豊かな文化的背景をもつ。

６年生で扱う書き初め「夢を語ろう」は、これまで小学校で習得してきた「点画の書き方」「文字の組み立て」「配列」といった基礎・基本の集大成となる教材である。日常的な半紙での

学習とは異なり、縦長の大きな書き初め用紙に大筆で書く体験は、漢字と平仮名の結び付きを考えながら、用紙全体に対する文字の大きさ、余白、配列といった既習内容を捉えられる教材となっている。

【指導観】

書写委員会のめざす学習者像「文字を大切にし、学んだことを日常生活に生かそうとする」子どもを育てるため、日常の半紙学習においては、二つのことを大切にして学習活動を進めていく。

一つ目は主体的な対話を通して学びを深め、学んだことを日常に生かせるようにする。主体的に学習を進めることができるように『準備・片付け』『見通し』『課題把握』を大切にする。『準備・片付け』では、３～４人グループで役割（半紙配り、教科書配布・回収、作品回収等）を決めて行う。『見通し』では、学習の始めに「試し書き・話し合い・練習・アドバイスタイム・まとめ書き・ほめほめタイム」の学習過程を掲示することで、１時間の学習の流れを可視化して見通せるようにする。『課題把握』として、試し書きと教科書を見比べて自己の課題を決定し、その後で共通課題を全体で共有し、何のために学ぶのか、何を学ぶのかを明確にする。対話を通して学びを深めることができるように学習内容の視覚化を図る。拡大提示した文字について、教科書の QR コンテンツや点画ピース、穂先手袋と穂先マグネット等の教具を使いながら、グループ、全体、学習者と指導者の対話を重ねることで、文字を整える要点を多面的に捉えることができるようにする。また、書写の学習用語に関しても対話の中で意識して使えるよう、声かけしていきたい。

二つ目は評価規準と振り返りの方法を明確にすることである。授業の終末には、試し書きとまとめ書きを見比べて自己評価と相互評価を行い、学習の成果を確かめられるようにする。本時の共通課題を意識して評価することにより、１時間の活動の成果を振り返ることができるようにする。半紙学習では、試し書きとまとめ書きを並べて台紙に貼ることで、より個別の学習成果の見取りにつながると考える。

このようにして、自己の課題を明確にして、主体的に学びを進めていく。対話的な学びを大切にしながら、自己評価・相互評価での振り返り活動を行い、成果や課題を今後の学習や生活に生かしていけるように指導していきたい。

本単元においては、日常の半紙学習とは異なり、縦長の大きい用紙に書く「書き初め」であるため扱いが難しいが、大きな用紙に書く経験を楽しませたい。大きな用紙に書くため、書く姿勢に気を付けながら字を書けるようにしたい。用紙全体が見えるよう、交流がしやすくなるよう、多目的室の床の上で書くようする。課題達成のための文字練習では、半紙を用いたり、文字ごとに書く時のポイントを絞った練習シートを活用したりして練習できるようにする。練習シートは、横幅は書き初め用紙に合わせてカットしたものを用意し、実際の書き初め用紙に書く文字の大きさを練習できるようにする。書き初め用紙は、５文字がうまく入るよう、あらかじめ折り目をつけたものを渡すようにする。また、学習者用端末を使い、各単元で書いた自己の「試し書き」と「まとめ書き」を写真に撮り、Canva のシートでポートフォリオを作ることで、学習者が学びのつながりを自覚できるようにする。自分のポートフォリオを見ながらこれまでに学んできたことを振り返り、自らの学びを実感し、書き初めを書くときにつながる書き方や、自己の成果や課題を見つけられるようにしたいと考える。

９．指導と評価の計画（全２時間）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
１	○学習の見通しをもつ。	・本時の学習の流れを知らせる。「試し書き・課題見つけ・練習・アドバイスタイム・まとめ書き・ほめほめタイム」の短冊を黒板上部に貼り、学習過程を見通せるようにする。	
	○書き初めについて知る。	・写真等のスライドをもとに、書き初めについての慣習や経験を話し合えるようにする。	
	○毛筆で試し書きをして自己の課題をもち、課題を伝え合う。 「夢を語ろう」 （書き初め用紙１枚）	・学習する文字について確認した後、教科書を見ずに書くように促す。 ・教科書の手本と自分の試し書きを見比べ、自己の課題を赤ペンで書き込むように指示する。（５文字で２、３か所程度） ・３～４人のグループごとに、順番に伝え合えるようにする。	〔主体的に学習に取り組む態度〕 自らの文字と教科書を見比べ、自己の課題を見つけている。
	○本時の共通課題を知る。	・既習の文字の整え方を生かして、書き初めをすることを知らせる。	〔思考・判断・表現〕 既習の文字の整え方について話し合っている。
	○書くときのポイントを確認する。	・学習者用端末を使い、ポートフォリオを手がかりにして、本単元に繋がる書き方について話し合えるようにする。 （評価ポイント） 【組み立て方】 ・三つの部分の高さや幅を変え、位置を工夫して書く。	〔知識・技能〕 既習の文字の整え方を理解している。
	○練習する。	・評価ポイントを意識しながら練	〔主体的に学習に取り

	「夢を」 （練習シート１枚） （半紙１枚） ○友達からアドバイスをもらう。 （アドバイスタイム） ○本時のまとめ書きをする。 「夢を語ろう」 （書き初め用紙１枚） ○本時の成果について確かめる。 （ほめほめタイム） ○次時の予告をする。	習できるように、練習シートを用意しておく。 ・評価ポイントに着目して、グループごとにアドバイスし合うよう指示する。 ・本時の共通課題に気を付けて書くように促す。 ・名前は、小筆も大筆と同様、既習の点画や行間の中心・字間などの配列や文字の大きさに気を付けて書くことを確認する。 ・試し書きとまとめ書きを見比べて自己評価するよう促す。 ・本時のまとめ書きを残しておき、それを自己批正して書き初めすることを知らせる。	組む態度〕 自分の文字を見直しながら、進んで書こうとしている。 〔知識・技能〕 既習事項を生かして丁寧に書いている。 （行動観察）
２本時	○学習の見通しをもつ。 ○本時の共通課題を知る。 ○前時でやった書き初めのポイントを思い出す。 ○自己の課題をもつ。	・前時で使った学習過程の短冊を黒板に提示し、本時の流れを知らせる。 ・既習の文字の整え方を生かして、書き初めをすることを知らせる。 ・前時に確認した、書き初めを書くときのポイントを提示する。 【組み立て方】 ・前時のまとめ書きを見て、改善	〔主体的に学習に取り組む態度〕 前時を想起したり、学習過程を掲示物で振り返ったりして、指示なく自ら学習に取り組もうとしている。

		したいところに赤ペンでしるしを付けるように促す。	
	○書き初めを書く時のポイントについて話し合う。	・自己のポートフォリオを見ながら、自己の学びを振り返り、苦手なところや得意なところを確かめながら、書き初め「夢を語ろう」の書き方につながるポイントについて話し合えるようにする。 （評価ポイント） 【文字の大きさ】 【組み立て方】 【点画のつながり】	〔思考・判断・表現〕 既習の文字の整え方について話し合っている。 （意見交換の様子）
	○3つのポイントから1つ選んで練習する。 「夢を」、「語ろう」 （練習シート1枚） 「夢を語ろう」 （書き初め用紙1枚）	・評価ポイントを意識しながら練習できるように、練習シートを用意しておく。	〔主体的に学習に取り組む態度〕 自分の文字を見直しながら、進んで書こうとしている。
	○友達からアドバイスをもらう。	・評価ポイントに着目して、グループごとにアドバイスし合うよう指示する。	
	○本時のまとめ書きをする。 「夢を語ろう」 （書き初め用紙2枚）	・自己の課題や既習の文字の整え方に気を付けて書くよう指示する。	〔知識・技能〕 既習事項を生かして書いている。
	○本時の成果について確かめる。	・名前は紙面左の空いた箇所に、本文にぶつからないよう大きさを考えて書くよう促す。 ・評価ポイントを基に評価するように指示する。	

［知識・技能］作品観察
「おおむね満足できる」状況（B）評価
・既習事項を理解して書いている。
「努力を要する」状況（C）への手立て
・既習の教材の手本を提示することで、どこを意識して書けばよいかを考えられるようにする。
［思考・判断・表現］観察
「おおむね満足できる」状況（B）評価
・既習の文字の整え方について、どのように生かすか考えながら書いている。
「努力を要する」状況（C）への手立て
・既習の文字の整え方がわかるよう練習シートで練習することで、既習事項をどのように生かしているか理解できるようにする。
［主体的に学習に取り組む態度］行動
「おおむね満足できる」状況（B）評価
・学習材以外の文字にも学習したことを生かそうとしている。
「努力を要する」状況（C）への手立て
・既習の文字の書き方がわかる表を提示したり助言したりして、書き方を意識できるようにする。

10．本時の学習（2/2）

⑴　本時の目標

文字の整え方の理解を深め、書き初めを丁寧に書くことができる。

⑵　本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価
1　本学習内容について知り、学習の見通しをもつ。 2　共通の課題を知る。	・「課題見つけ」「練習」「アドバイスタイム」「まとめ書き」「ほめほめタイム」の短冊を掲示しておき、本時の学習の流れを把握できるようにする。	
学習したことを生かして、書き初めをしよう。		
3　自己の課題をもつ。	・教科書の手本と前時のまとめ書きを見比べて、改善したいところに赤ペンでしるしを付けるように促す。 （５文字で２～３か所程度）	〔主体的に学習に取り組む態度〕 自己の文字と教科書を見比べ、自己の課題を見つけている。

4　「夢を語ろう」を書くときのポイントについて、話し合う。	・学習者用端末を使い、ポートフォリオの自分の過去のまとめ書きを見ながら、考えられるようにする。 ・既習事項を掲示する。 （評価ポイント） 【文字の大きさ】 〇用紙や文字の上下・左右には余白を作る。 〇平仮名は漢字よりも少し小さく書く。 【組み立て方】 〇三つの部分から成る文字の高さや幅を変えて、位置を工夫する。 【点画のつながり】 〇終筆から始筆へと、つながりを意識して書く。	〔思考・判断・表現〕 既習の文字の整え方について話し合っている。 [知識・技能] 既習の文字の整え方を理解している。
5　練習する。 （練習シート１枚） （書き初め用紙１枚）	・評価ポイントを意識しながら練習できるように、練習シートを用意しておく。 ・評価ポイントごとに沿った練習シートの中から、自分のめあてにあったものを１枚選べるようにしておく。 (グループのかごから選ぶ。) ・練習シートは、書初め用紙の幅に合わせて用意しておく。	〔主体的に学習に取り組む態度〕 自分の文字を見直しながら、進んで書こうとしている。 ［知識・技能］ ・既習の文字の整え方に気を付けて書いている。
6　友達からアドバイスをもらう。 （アドバイスタイム）	・評価ポイントに着目して、グループごとにアドバイスし合うよう指示する。	
7　本時のまとめ書きをする。 （書き初め用紙１枚）	・自己の課題や既習の文字の整え方に気を付けて書くように指示する。 ・名前を書くときには、本文にぶつからないように、既習事項を意識しながら文字の大きさ等に気をつけて書くよう促す。	

８　本時の成果について確かめる。 （ほめほめタイム）	・試し書きとまとめ書きを見比べて自己評価したり、よくなった点を相互評価によって見つけあったりするように促す。 ・書写用語を使い、評価ポイントに着目して評価するよう促す。	

１１　板書計画

